

商店街名：稲武商工会（豊田市）

キャッチコピー

暮らしと観光をつなぐ、里山の交流拠点・稲武商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

稲武地区の人口は昭和25年がピークで6,084人、現在（令和8年4月）は1,865人と大幅な人口減少が起きており、人口減少率は69.3%である。また、高齢化も進んでおり、65歳以上が54.4%と深刻な状況であり、買物環境の維持が課題である。一方、道の駅、どんぐりの湯、国道153号・257号の結節点という強みがあり、新伊勢神トンネル開通等により来訪者増加が期待される。



◇商店街の姿

商店街が住民の買物・生活を支え、道の駅等の来訪者を旧国道沿いへ誘導する受け皿となる。朝市、チャレンジショップ、ポイントカード等により来街機会と個店利用が増えている。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

人口減少・高齢化がさらに進む中、生活サービスの維持に加え、移住者、関係人口、観光客を地域経済へ取り込む仕組みづくりが重要となる。



◇商店街の姿

生活支援、交流、観光消費、創業支援の拠点となり、地域内外の需要を取り込む持続可能な商業エリアとなる。空き店舗活用や若手・移住者の創業によりテナントミックスが進んでいる。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス）【構想計画期間：2026年度～2030年度】

住民、来訪者、事業者への調査を継続し、買物支援、回遊性、必要業種を把握する。把握したニーズを基に、①どんぐり朝市（毎月第3日曜のAM7:00～AM9:00に道の駅どんぐりの里いなぶで開催）、どんぐり横丁（道の駅の直売施設）内の商工会コーナー等を活用したテスト販売等による販路拡大・テストマーケティング、②旧商工会館等を活用したチャレンジショップ（期間限定のテストマーケティング）による創業支援、③お買物配達便事業（商品の宅配等の買い物支援）による高齢者支援、④ポイントカードシステムを刷新（顧客管理や入荷等の情報発信ができるシステムに更新）し、多くの加盟店を募ることによる地域内消費促進、⑤専門家による個店改善指導を実施する。実施後は利用者の声、売上、通行量、加盟店数等を検証し、改善を重ねることで、商店街に不足する機能を補い、持続的な運営につなげる。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計16名

(2) 地域プラットフォーム

名称：稲武商工会経営発達支援計画検討会

目的：商店街の将来像を共有し、地域住民、行政、金融機関、大学、福祉関係者等の意見を踏まえ、生活支援、誘客、創業、承継、販路拡大に資する取組を検討・推進する。

参画：商店主、市町村、地域住民、学校

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

アンケートやヒアリングでは、車がないと買物が困難、交通手段が不便、移動販売・宅配への関心、品揃えや店舗内容への不満、地元商店は高いというイメージが把握された。また、道の駅来訪者を商店街へ誘導する仕組み、高齢者向け買物支援、空き店舗活用、創業・承継支援へのニーズがある。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

お買物配達便、御用聞き、集会所等での訪問PRにより、地域住民の生活を支える。あわせて、どんぐり朝市、チャレンジショップ、旧国道沿いへの誘導イベント、ポイントカード刷新を通じて来街機会と地域内消費を増やす。さらに、空き店舗を活用した創業・承継支援、個店改善指導、販路拡大を組み合わせ、地域課題の解決とにぎわい創出を図る。